

## 令和3年度日本いも類研究会総会の報告

日本いも類研究会総会は令和元年度、2年度と2年間コロナ感染症拡大のため中止のやむなきに至りました。

令和3年度総会はZoom ウェビナーによるリモート会議で3月17日（木）に開催しました。一般財団法人いも類振興会との共催によるいも類講演会を13時から16時まで行ったあとの開催でしたが約50名の方が出席していただきました。

日本いも類研究会の小巻会長が議長となり以下の2案について議事を進めました。

1. 令和3年度事業報告及び収支報告
2. 令和4年度事業計画及び収支計画

2案ともに、出席会員の方の賛成を得て了承されました。

○令和3年度事業報告については先に研究会ニュースとして送りましたが、会員数などに一部異動がありましたので、修正した事業報告を同封しております。

新しい事業や終了する事業もあります、令和4年度の事業計画について簡単に説明いたします。

（詳細は別添 令和4年度日本いも類研究会事業・活動案をご覧ください。）

令和4年度の総会、講演会はリモートで行うとともに、サツマイモ基腐病に関する情報交換会をリモートで開催する予定です。

サツマイモ基腐病についてはその防除や栽培上の対策、抵抗性品種等の情報共有化が急がれています。このため、主にサツマイモに関する各種情報を共有するさつまいも情報センターを日本いも類研究会として整備していくことにしております。

なお、これまで研究会ニュースとして送っていた、各種統計情報、いも類関係予算等はいも類振興情報にそれぞれコーナーを設けてよりの確な情報を送ることにいたしました。

また、新品種栽培試験についてはジャガイモにおいても、比較的多くの品種が入手できる環境が整ったこともあり、中止を目的に検討いたします。

皆様からの要望も多い、サツマイモとジャガイモのミニ白書につきましては、それぞれ事典を刊行していることから、いも類研究会ホームページに載せてあります両ミニ白書を修正していくことにいたしました。

○収支報告につきましてはすでに監事による監査を受けており、適正かつ正確である旨の報告を受けております。令和4年度への繰り越しは200万円を少し超えることとなります。

令和4年度ではリモート会議を多く行うことになることから、情報関係の予算を増額します。

一方、冊子として送ることを取りやめた研究会ニュースの印刷費を減額します。

### 令和4年度のリモート会議関係

日本いも類研究会総会、一般財団法人いも類振興会と共催のいも類講演会 令和5年 3月

日本いも類研究会 幹事会 2回程度 時期未定

サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会 2回程度 時期未定

このほか、サツマイモ産業振興セミナー、かんしょ品質評価研究会などをリモート開催で行う予定。

## 令和3年度事業報告

### 1. 会員への情報提供

#### (1) いも類研究会ニュース等の印刷・配布

いも類に関する統計情報や農林水産予算の概要、病害虫発生予察情報等のトピックスを掲載した、いも類研究会ニュース及びいも類振興情報を年4回全会員に印刷・配布した。

#### (2) ホームページ・メーリングリストの運営

ホームページの更新やメーリングリストの運用、サーバの管理やセキュリティ対策などを、研究会会員であるさつまいもカンパニー株式会社に委託して実施した。

##### ① ホームページの改修

じゃがいも品種詳説、ジャガイモ博物館、かんしょ品質評価試験結果、ポテトチップス試食調査結果を更新した。問合せフォームを設置し、外部からの問合せを事務局全体で管理できるように対応した。

研究会のこれまでの活動を、以下の項目ごとに分けてわかりやすく掲載している。

- ◇ 「じゃがいも情報」：じゃがいも品種詳説、ジャガイモ博物館、じゃがいもに関する国内文献目録 じゃがいも Mini 白書、レシピ、リンク
- ◇ 「さつまいも情報」：さつまいも品種詳説、サツマイモ資料館長日記、さつまいも Mini 白書、焼き芋小百科、レシピ、リンク
- ◇ 「評価試験等」：かんしょ品質評価試験、ポテトチップス試食調査、ジャガイモ新品種試験栽培
- ◇ 「セミナー等」：サツマイモ産業振興セミナー、いも類講演会、国際焼き芋交流フォーラム
- ◇ 「研究会について」：研究会の会則や役割など項目ごとにまとめ、調べやすい形に整えている。

② Facebook ページでホームページの更新情報を発信するとともに、会員発案事業（ポテトチップス試食調査、サツマイモ基腐病情報交換会）等の告知を行った。また、Facebook ページ経由での外部からの質問に対応している。

③ 会員外の方の問合せについては適宜会員の方々に尋ねるとともに、サツマイモ事典、ジャガイモ事典等を参考にして回答した。

④ じゃがいも品種詳説、さつまいも品種詳説については、種苗法に基づく品種登録を行っている品種を中心に掲載することとし、じゃがいも品種詳説については近年種苗法に登録された品種を掲載した。

### 2. 研究会等の開催及び支援

#### (1) ばれいしょ加工適性研究会及びかんしょ品質評価研究会への協力

(公財) 日本特産農作物種苗協会によるばれいしょ加工適性研究会及び(一財) いも類振興会によるかんしょ品質評価研究会における農研機構の新規育成系統の評価試験の実施及び研究会の開催と報告書取りまとめに協力した。「かんしょ品質評価研究会報告書」については JRTWeb に掲載した。

#### (2) 農林水産省消費者の部屋「さつまいも、じゃがいもの週」への協力

令和3年10月25日(月)～10月29日(金)に開催された農林水産省の消費者の部屋特別展示「さつまいも、じゃがいもの週」の開催に協力し、中日本農業研究センター、九州沖縄農業研究センターからはさつまいもの各種品種、北海道農業研究センター、北海道立北見農業試験場、長崎県農林技術開発センター中山間営農研究室からはじゃがいもの各種品種、会員企業からはさつまいも、じゃがいもの青果、「ポテトサラダ」「ポテトチップ」、「焼酎」、「干しいも」「けんぴ」、「色素」等の提供を得た。

### 3. MiNi 白書作成

じゃがいも MiNi 白書については、平成 17 年に発行して以来、10 年以上を経過しており、内容の更新を行うこととして取り組んだが、原稿が整わず次年度に繰り延べることとした。

### 4. ジャガイモ新品種試験栽培の実施

ジャガイモ新品種試験栽培については、本年産の種ばれいしょが夏場の天候不良により不作になり、供給不足になったこともあり、協力企業とのコスト面での調整が難しく、実施を見送った。

### 5. 会員発案事業

#### (1) ポテトチップス試食試験調査の実施

本年はポテトチップス用品種として開発された「ハロームーン」及び「しんせい」と近年の試食調査で好評であった「パールスターチ」、「こがね丸」及びピンク色の「ノーザンルビー」の 5 品種で評価を行い、調査結果をホームページに掲載した。

なお、新たな試みとして調査参加者によるリモート会議（オフ会）を開催し、サンプルの製造工程について説明を行うとともに集計方法等についても意見交換を行い、次年度に反映させることとした。

#### (2) サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会の開催

平成 30 年に国内で初めて発生が確認され、これまで南九州で猛威を振るっていたサツマイモ基腐病は、令和 2 年には九州各県のほか高知県、静岡県、3 年 7 月には関東の茨城県、千葉県、そして 8 月後半には北海道でも発生が報告された。このような状況に鑑み、一般財団法人いも類振興会、日本かんしょ輸出促進協議会と共催の形で、サツマイモ基腐病の現状と対応に関する情報交換会を開催することになった。コロナ感染症対策の関係もあり、リモート（Zoom ウェビナー）方式で会議を開催した。

#### ■ 1 回目 8 月 30 日 13 時 30 分～15 時 30 分

参加者は Zoom 登録者が 160 名、参加者は 300 名をこえる盛況であった。講師として農研機構九州沖縄農業研究センター カンショ・サトウキビ育種グループ長小林晃氏が、生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)「産地崩壊の危機を回避するためのかんしょ病害防除技術の開発」における研究成果を取りまとめたマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」令和 2 年度版をもとに、サツマイモ基腐病の発生生態、防除対策等について詳細な説明を行った。各地のパネリストより、現状が報告された。また、参加者からの質問については後日回答することとなった。

会員の間でも基腐病に対する危機意識が高まってきたことから、2 回目と 3 回目は日本いも類研究会の会員発案事業として行うこととした。

#### ■ 2 回目 12 月 21 日 13 時 30 分～15 時 30 分

1 回目と同様リモート方式で会議を行った。参加者は Zoom 登録者が 150 名、参加者は 300 名を超える盛況であった。まず、小林グループ長から前回の質問に対する回答を行った。次いで、各地域のパネリストから令和 3 年のさつまいも栽培と基腐病発生状況等が報告された。サツマイモ基腐病対策としては「持ち込まない」、「増やさない」、「残さない」の三大原則を守ることが大切との認識が共有された。

#### ■ 3 回目 3 月 28 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分

最新版のサツマイモ基腐病の発生生態と防除対策(令和 3 年度版)をテーマとして開催し、登録者が 200 名、参加者が 300 名を超える盛況であった。

農研機構九州沖縄農業研究センター 暖地畑作物野菜研究領域 小林 有紀上級研究員から令和 3 年

度版マニュアルについての説明を行うとともに、第2回目の情報交換会において寄せられた質問に対して、農研機構九州沖縄農研、鹿児島県農試、宮崎県農試の研究者からそれぞれ詳しい回答を行った。

#### 6. 総会の開催

令和3年度の総会は、令和4年3月17日（木）にリモート（Zoom ウェビナー）方式で行った。

#### 7. 会員数の状況

令和3年度会員数は、令和4年3月末現在で個人会員207名（未納入者23名）、法人会員は45社となっている。

○ 令和3年度会費納入会員数の推移（法人会員1社は令和3年度会費を令和2年度に先払い。）

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
個人	175	236	268	298	294	218	211	239	230	216	196	180	191
法人	14	23	30	34	42	45	38	35	37	34	31	27	27
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	
個人	196	179	205	205	199	205	189	193	191	195	177	184	
法人	30	34	36	35	35	36	37	38	37	39	40	44	

#### 8. 他団体との連携強化

一般財団法人いも類振興会と共催でも類に関する講演会を開催するとともに、会員が主催する一般社団法人さつまいもアンバサダー協会、川越のサツマイモまんが資料館などが行う行事等についてはメーリングリストや研究会ニュースを通じて広く会員に情報を提供した。

## II 令和4年度事業計画（継続して行う事業）

### 1. ホームページ・メーリングリストの運営

引き続き、ホームページの更新やメーリングリストの運用、サーバの管理やセキュリティ対策などを、研究会会員であるさつまいもカンパニー株式会社に委託して実施する。

じゃがいも品種詳説、ジャガイモ博物館、かんしょ品質評価試験結果、ポテトチップス試食調査結果等を随時更新するとともに、いも類振興情報掲載記事のバックナンバーを JRTWeb から閲覧できるようにして、会員の便宜を図る。外部からの問合せは事務局全体で適切に対応する。

さつまいも品種詳説については、掲載方法を検討のうえ、種苗登録品種は全て掲載する。トピックスコーナーには、いも類に関する催し物などを中心に適時掲載していく。

### 2. いも類に関する研究会等の開催及び支援

ばれいしょ加工適性研究会及びかんしょ品質評価研究会に引き続き協力し、特に加工向け品種の普及に向けて会員への周知等を積極的に行っていく。

### 3. 日本いも類研究会総会の開催

令和4年度定期総会については、令和5年3月にオンラインで開催するとともに、(一財)いも類振興会との共催で講演会を開催する。総会、講演会については、リモート（Zoom ウェビナー）方式とし、講演会についてはホームページで広く一般の方への参加を呼び掛ける。

### 4. 他団体との連携強化

(一財)いも類振興会の行う各種事業に協力するとともに、さつまいも関係では一般社団法人さつまいもアンバサダー協会や川越のサツマイモまんが資料館など会員独自の活動と連携して、より広範ないも類の振興を図る。なお、催し物を開催する場合はオンライン視聴ができるように取り組む。

### 5. 会員の発案による事業の実施

研究会では会員がそれぞれ研究会に積極的に参加することにより運営の活性化を図るため、会員発案による事業を実施することとする。なお、事業の実施に当たっては以下の条件を満たすこととし、申し出の早い順に採択するものとする。

- ・基本的にいも類の生産・流通・消費の拡大を目指す内容のものであること。（イベントの案内や会員への資料送付は事務局も協力）
- ・経費の対象は講演等のための講師旅費、謝金等とし、人件費、旅費及び機械施設整備費は経費の対象としない。
- ・予算の範囲内での事業規模を基本とする。
- ・実施希望会員は、事業計画及び収支計画を事務局に提出するとともに、事業が終了した場合は遅滞なく実施報告（資料であれば印刷部数）及び経費請求書を事務局に提出する。
- ・令和4年度のサツマイモ基腐病の発生状況が甚大な場合には、情報交換会を令和3年度同様に開催することとする。

### 6. 会費の徴収

- ・会費納入案内は4月に送付することとし、納入期限は7月末日とする。
- ・会費納入案内時には、払込取扱票とともに会員住所変更届を同封し、的確な会員管理に努めるものとする。
- ・令和2年度会費未納会員のうち、令和4年3月末までに会費の納入がない場合は退会希望とみなし、必要な事務処理を行う。

### Ⅲ 令和4年度事業（新規及び変更）についての提案

#### （1）新品種試験栽培、いも類研究会ニュースの発行、MiNi 白書の改定の見直し

##### ① 新品種試験栽培

新品種試験栽培については、平成21年以降、ジャガイモのみを対象に実施してきたが、近年はホームセンター等の種子販売コーナーでも多くの品種の種いもが販売されるようになったことに加えて、対象品種はジャガイモシストセンチュウ抵抗性であることが必須となっていることから、ニーズの把握や実施方法、協力機関・企業等についての是非を判断することとしたい。

##### ② いも類研究会ニュース発行の見直し

現在、いも類振興情報といも類研究会ニュースを合わせて会員に送付しているが、会員の利便性向上と事務局作業の合理化・効率化の観点から、いも類研究会ニュースの冊子での発行を停止し、いも類振興情報に統合する。これまでニュースに掲載していた情報は、予算、白書、統計等のジャンルでいも類振興情報に掲載する。

会員にはこれまで通り、希望者に対して、いも類振興情報を年4回（4月、7月、10月、1月）郵送する。

研究会関係のお知らせは、いも類振興情報のトピックスの中で取り上げるか、ニュースレター形式でA4数枚にまとめて同封する形とする。ニュースレターはJRTWebにも掲載する。

##### ③ MiNi 白書の改定の見直し

じゃがいも及びさつまいも MiNi 白書の発行以後、（一財）いも類振興会よりジャガイモ事典、サツマイモ事典他が発行されていることから印刷物としての発行はとりやめ、JRTWebに掲載している MiNi 白書の記述をそれぞれの事典の内容と突合して改定する。

#### （2）研究者・専門家リストの作成

日本いも類研究会には、サツマイモやジャガイモに関する問い合わせがメディアや個人等から多く寄せられている。また栽培や加工などに関する相談が寄せられることも多い。専門的な問合せや相談内容の場合、広くメーリングリストで回答を募集するよりも、最適な研究者・専門家に直接回答を依頼したほうが効果的・効率的であると考えられる。

そのため、研究会に所属している研究者・専門家の経歴や対応可能な領域等を整理し、問合せや相談内容に応じて、事務局から直接連絡・要請できるようにしたい。また研究者・専門家リストとして Web 上に公開し（公開希望者のみ）、閲覧者に対して研究会として対応できる領域を示したい。

#### （3）サツマイモ情報センターの設立

令和3年度会員発案事業で、サツマイモ基腐病情報交換会の開催と、それを手始めとしたサツマイモ情報の発信、関係機関の連携を主目的としたサツマイモ情報センターの設立に向けた運営方針等の検討を提案した。

同情報交換会の第1回目のアンケート結果では、サツマイモに関する情報交換（交流）について今後も継続した取組みや、地域や立場を超えたネットワーク構築を求める声があがっていた。また、2019年6月に開催したサツマイモ情報交流ネットワーク・シンポジウムのアンケートでも同様に積極的な情報交流を求める声があがっていた。現在、サツマイモに対する情報のニーズは年々高まっており、サツマイモに関して専門性や関係性を深める仕組みや交流の場として、サツマイモ情報センターの設立を進めたい。

日本いも類研究会役員（令和3年度・4年度）

会 長	小 巻 克 巳	前福島県農業総合センター所長 (農林水産省産学連携支援コーディネーター)
副 会 長	岩 井 菊 之	(有)菊水堂 代表取締役社長
幹 事	片 山 健 二	農研機構 北海道農業研究センター畑作物開発利用研究領域 バレイショ育種グループ長
同	甲 斐 由 美	農研機構 九州沖縄農業研究センター 農業技術コミュニケーター
同	田 宮 誠 司	農研機構 技術支援部 東北技術支援センター 東北業務第1科長
同	坂 本 悠	長崎県農林技術開発センター 畑作営農研究部門 中山間営農研究室 主任研究員
同	林 一 也	東京家政学院大学 教授
同	山 田 英 次	川越いも友の会 事務局長
会計監査	西 郷 伸 二	株式会社ホーブ執行役員
顧 問	井 上 浩	日本いも類研究会前会長
同	齊 藤 浩 一	(株)川小商店代表取締役社長
同	田 中 智	元カルビーポテト(株)参与
同	津久井亜紀夫	元東京家政学院大学教授
事務局長	中澤 健雄	(一財)いも類振興会 需要推進部長
事務局長補佐	橋本 亜友樹	さつまいもカンパニー株式会社代表取締役

注：農研機構は、国立研究法人農業・食品産業技術総合研究機構の略

日本いも類研究会 法人会員（計 45 法人）（令和4年4月1日現在 会員番号順）

株式会社ホープジャパンポテト事業部  
三栄源エフ・エフ・アイ株式会社  
公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会  
十勝農業協同組合連合会  
日農化学工業株式会社  
東洋農機株式会社  
カルビーポテト株式会社  
三好アグリテック株式会社  
ホクレン農業協同組合連合会  
ケンコーマヨネーズ株式会社  
さつまいも産業振興協同組合  
芽室町農業協同組合  
大樹町農業協同組合  
株式会社松尾青果  
士幌町農業協同組合  
幕別町農業協同組合  
株式会社 JA 東海グリーン  
公益社団法人北海道農産基金協会  
株式会社柳川採種研究会  
カネコ種苗株式会社  
株式会社川小商店  
株式会社舟和本店  
株式会社幸田商店  
カルビー株式会社  
有限会社西田農産  
株式会社大隅半島農林文化村  
株式会社ポテトかいつか  
霧島酒造株式会社  
なめがたしおさい農業協同組合  
さつまいもカンパニー株式会社  
株式会社ユーキフーズ  
日本種馬鈴薯協会  
有限会社内山青果  
公益財団法人日本特産農産物協会  
白ハト食品工業株式会社  
大口酒造株式会社  
有限会社アグリプロセス宮崎  
茨城中央ほしいも協同組合  
特定非営利活動法人うつくしま・ふくしま農産物普及推進協議会  
アグロアソシエイト株式会社  
カネカ株式会社  
株式会社ベルディ  
株式会社カワコファーム  
エイシン電機株式会社  
日本スターチ・糖化工業会